

一、新種梗概

昭和五年五月七日

鳥根縣立農事試驗場

埼玉縣立農事試驗場 御中

水稻新品種育成試驗耕種梗概送附、件

昭和五年年度水稻新品種育成試驗打合也會、規定一、從七耕種梗概別紙、如、改訂任、候、御、查、收、相、成、度、候、也



二、整地

播種一週前前灌水、可、呼、呼、二、代、播、種、七、播、種、四、又、踏、切、溝、一、尺、長、分、適、當、短、形

二、色、劃、之、床、面、高、低、一、キ、ヨ、リ、能、ク、均、ク、ス。

三、肥料(坪當、俵)

肥料名	基肥	追肥	合計	四要素量
硫酸安否思里	三〇俵	一	三〇俵	窒素 一〇又六
撒入豆粕	五〇俵	一	五〇俵	燐酸 八〇
尤美過磷酸	三〇俵	一	三〇俵	加里 九五
硫酸加里	一〇俵	一	一〇俵	
草木灰	一〇俵	一	一〇俵	

四、施肥期及施肥法

播種二日前所、基肥、表面、播、種、三、輕、々、土、壤、に、播、種、均、ク、ス。

五、播種期

五月一日

六、播種量

坪當、生、粒、二、合

七、播種法

播種ハ、概、々、八、木、種、ヨ、リ、テ、各、品、種、及、各、系、統、之、二、所、要、面、積、ヲ、区、劃、シ、種、子

一、試驗圖

(一) 耕種梗概

鳥取縣知事五年度設計書訂正ノ件
 農務課附屬昭和五年年度設計書九ノ如ク訂正仕リ候

(二) 位置

(三) 面積

(四) 前作物

(五) 種子豫措

(六) 選種

(七) 浸種

(八) 苗代

(九) 耕地

一、町一、五九四〇頁、八四四二頁ノ誤リ
 從テ、四一四二頁、八三九四〇頁ナリ
 但シ、多肥栽培ニハ水桶裏作ナリ

二、二九頁、最後ノ行、單独系統(大場又改良大神力)ノ下ニ親系統數
 一、系數、二、ヲ記入ス

風選後、比重一二三、若福汁選ヲ行フ(但シ、雜利數若クモ、テ除ク)

播種前清水ヲ盛リ、桶ニ浸シ、毎朝換水シ、其部度種粒ノ入レ、ル袋ヲ上下ニ置キ換フ

早春水ノ漲リ、前年、脫落粒ヲ免テ、種粒ヲ取リ、後、浸シ、耕地ニ

上、床ノ氣深ク、見計ニテ、再耕シ、土壤ヲ充分耕シ、

播種一週間前、灌水シ、呼吸ニ代、播種後、七、八、日、踏切リ、溝一尺長、適量、種ヲ移

ニ、色割シ、床面、高低、一キヨク、能ク均ラシク

(四) 肥料(秤量、%)

肥料名	基肥	追肥	合計	四要素量
硫酸安花見豆	三五%		三五%	窒素 一〇% 大
撒入豆粕	五〇%		五〇%	磷酸 八〇
尤量過磷酸	三〇%		三〇%	加里 九五
硫酸加里	一〇%		一〇%	
葉 瓜	一〇%		一〇%	

(二) 施肥期及施肥法

播種二、三日、前、所、要、基、肥、〇、茶、面、ニ、播、布、シ、輕、ク、土、壤、ニ、播、入、均、ラ、ス

(三) 播種期

(四) 播種量

(五) 播種法

五月一日

秤量、生、粒、ニ、合

播種ハ、板、又ハ、木、箱、ニ、ヨリ、テ、各、品、種、及、各、系、統、ニ、對、シ、所、要、面、積、ヲ、区、劃、シ、種、子

(一) 耕種梗概

一 試驗圖

(1) 位置 島根縣簸川郡塩冶村

(2) 面積 一町二反半

(3) 前作物 紫雲英 但シ多肥栽培已ハ水柿裏作ナリ

二 種子豫措

(1) 選種 風選後比重二三ノ若穢汁選ヲ行フ(但シ標別栽培モナク除ク)

(2) 浸種 播種直前清水ニ盛ル桶ニ浸シ毎朝換水ニ其部度種粒ニ入レル袋ヲ上下ニ置キ換フ

三 苗代

(1) 耕起 早春水ヲ灌ギ前年ノ脱落枝ヲ発着セシメ次ニ稻標ヲ取リ後淺ク耕起シ

土壤ハ乾燥スルヲ見計ヒテ再耕シ土壤ヲ充分精碎ス

(2) 整地 播種週間前灌水シ町幅ニ代播ナリニ播幅四又踏切リ溝一尺長サ適量短冊形

ニ区劃シ床面高低一キヨリ能ク均ラス

(四) 肥料(坪當、反)

肥料名	基肥	追肥	合計	四要素量
硫酸安石炭	三〇反	一	三〇反	窒素 一〇反大
撒入豆粕	五〇反	一	五〇反	磷酸 八〇
尤重過磷酸	三〇反	一	三〇反	加里 九五
硫酸加里	一〇反	一	一〇反	
糞 灰	一〇反	一	一〇反	

(二) 施肥期及施肥法

播種二日前所要ノ基肥ヲ床面ニ播布シ輕ク土壤ヲ掻キ均ラス

(1) 播種期 五月一日

(2) 播種量 坪當生粒ニ合

(3) 播種法 播種ハ板又ハ木箱ヨリテ各苗種反ビ各系統ニ云ニ所要面積ヲ区劃シ種子

・厚薄ナキヨウト噂ニ揚播ヲ行ヒ次テ種終墮ル程度ニ塗リ込ミテ穀ノ浮游スルヲ防グ。

(七) 管理

播種後數日間ハ床面一二寸深ニ灌水ニ其後ハ在間風雨及寒冷ノ日ヲ除キ成ル可ク灌水トシ温暖ナリトハ朝一テ内外深クニ水ニ張リ之ヲ放置シテ自然減水トシ床面ニ飽和濕潤ノ状態ニ保タシム尚稗及雜草ヲ除去ニ努メ播種前ハ穢ニ注意ス又五月下旬ヨリ七月一日捕虫網ヲ以テ害蟲ヲ捕捉リ六月ヨリハ類虫ハ捕取ヲ行フ其他害蟲發生シタル時ハ適宜之ヲ駆除ス。

四本 田

(八) 耕起

五月下旬終肥收穫後地肥及雜草ヲ撤布シテ深ク四五分位ニ耨起テナシ土壤ヲ熟深スルヲ務メテ切込ニ行ヒ土壤ヲ清浄ス但シ每畝或播種ニ裏作ナリテ以テ五月下旬深サ約六寸ニ耨起シテ成ス。

(九) 整地

六月下旬畦畔ノ塗リ播種前日灌水ニテ精細ニ代播ヲナス。

(十) 播種

六月十日ヨリ十四日ノ中播種ヲ成シ苗代日數早シク至四月十五日

(二) 肥料 (収量、費)

肥料名	基肥	第一回追肥	第二回追肥	合計	四要素量
堆肥	三〇〇〇	一	一	三〇〇〇	窒素 二八九八
紫雲英	一〇〇〇〇	一	一	一〇〇〇〇	磷酸 二一〇五
全上生草(刈草)	(葉菜(三斗))				加里 二九〇五
撒大豆粕	一	五	一	五〇〇	石灰 五五五〇
木炭燻煙石灰	一	三	三	六〇	(酸水石灰)
硫酸加里	一	一	二	三〇〇	
石灰	一〇	一	一	一〇〇	

(三) 施肥期及施肥法

五月下旬本田第一回耕起ノ際堆肥及紫雲英ヲ施シ次テ再耕陰石灰ヲ施シ

播種後十五日及三十日ニ次々前記ノ肥料ヲ追肥ス。

(八) 除草

一番除草

六月二十五日頃

田打車

二番除草 七月五日頃 八反指
 五番除草 七月十日頃 午取
 四番除草 七月十五日頃 午取

(十) 管理 挿秧當時は深水に苗を沈着後、成可く淺水に溫暖すれば排水して地温を上昇せしめ、穂刈ヨリ水が深ク張る穂揃後ハ深水に浸し、傾盆シタル頃落水入、穂刈後常に注意して蝗災等、駆除蝗災被害甚し、摘採ナシ又浮葉子、発生ニ対シテハ注油駆除ナシ、其他病虫害駆除等防ハ適宜処置ス。

(九) 收穫乾燥、收納 穂首・黄葉ニ付ル頃刈取、三週間内外段掛籠架ニ干乾燥シ、五分乾燥大ルヲ折リテ收納室ニ収ム。

(八) 收穫物、調製 收穫物ハ選別量・秤量シタル後、回轉攪穀機(九反式)ニテ脱穀シ、唐箕選り取り除キ、穀量ヲ測定シ、單相モリ、用岩田式脱粒機ニテ取捨大、葉ハ乾燥セルモノ、重量ヲ測定ス。

(二) 各試驗特別耕種法

各試驗ニ於ケル一被耕種機、概ト異レテ、項九、如シ。
 一多肥栽培ニ依ルテ、配用高糧選選是氣驗

(一) 本田施肥量(一反當 百匁)

肥料名	基肥	千回遊肥 (挿秧後十匁)	千二回遊肥 (挿秧後五日)	合計	四要素量
堆肥	600			600	窒素 5800
茶葉灰	100			100	磷酸 4250
硫酸銨 50 尼亞		22	22	44	加里 5830
撒大豆粉		100	100	200	石灰 11100 (酸化)
七草半過磷酸石灰		6	6	12	
硫酸加里		25	2	27	
石灰	20			20	

(四) 耕起、深サ約六寸

二、多肥栽培之休小育成試驗（第四代以後系統育成試驗，市園定系統，生產力檢定）試驗並之新品種

沃是試驗（含）

(1) 本田肥料（反當地肥量，貫）

肥料名	基肥	第一回追肥 (播後十日後)	第二回追肥 (播後三十日後)	合計	四要素量
堆肥	500			500	窒素 430
紫雲英	100			100	磷酸 280
硫酸安士尼亞		15	15	30	加里 440
撒大豆粕		50	50	100	石灰 550
十六烷基三甲基銨 硫酸加里		40	40	80	(酸化)
石灰	100			100	

(1) 耕起、深、約、水、寸

昭和五年度

水稻新品種育成試驗設計書

島根縣立農事試驗場

目次

- (一) 試驗要項
- (二) 試驗方法
 - 一 耕種梗概
 - 二 各試驗特別耕種法
 - 三 各試驗栽植標準
 - 四 試驗操作
- (三) 試驗計劃
 - 一 試驗計劃要綱
 - 二 各試驗設計

頁一四四四六七八百

(一) 試驗要項

一、多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗

目的 耐肥性強キ新品種ノ育成ニ供用スベキ交配用母本ヲ選定

セントス

二、多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗供用品種ノ標準栽培

目的 多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗供用品種ニ付キ標準

栽培ヲ行ヒ交配用品種選定試驗ノ比較研究ニ資セントス

三、標準栽培ニ依ル雜種第三代系統及ニ個體選抜試驗

目的 標準栽培ニ適スル優良ナル新品種ヲ育成セシメタル雜種

第三代中ヨリ有望ナル系統及ニ個體ヲ選抜セントス

四、標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

島 一

目的 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統ニ付キ標準栽培ニ

適スル優良系統ヲ育成セントス

五、多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

目的 多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統ニ付キ耐肥性強キ

優良系統ヲ育成セントス

六、標準栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試驗

目的 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

ニ於テ選抜セラレタル優良系統ニ付キ標準栽培ニ依リ

収量調査ヲ行ヒ新品種決定試驗ニ供スベキ系統

ヲ選定セントス

七、多肥栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試驗

目的 多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗ニ

於テ選抜セラレタル優良系統ニ付キ多肥栽培ニ依リ

收量調査ヲ行ヒ新品種決定試験ニ供スベキ系統ヲ
選定セントス

八標準栽培ニ依ル新品種決定試験

目的 「標準栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験」ニ依リテ
選出セラレタル系統ニ付テ收量其他、實用的特性ヲ調
査シ標準栽培ニ適スル優良新品種ヲ決定セントス。

九多肥栽培ニ依ル新品種決定試験

目的 「多肥栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験」ニ依
リテ選出セラレタル系統ニ付テ收量其他、實用的
特性ヲ調査シ耐肥性强ク優良ナル新品種ヲ決定セ
ントス。

島三
島四

(一) 試驗方法

一 耕種梗概

前年度ト同一(昭和四年度設計参照)

二 各試驗特別耕種法

(一) 多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試験

(山本田肥料 (反当貫))

肥料名	基肥	第一回追肥 播種後十日	第二回追肥 播種後十日	合計	四要素量
堆肥	六〇〇貫			六〇〇貫	窒素 七七五
紫雲英	二〇〇			二〇〇	磷酸 三七六一
硫酸安母尼魚		三九八七	三九八七	七九七五	加里 五七九二
撒大豆粕		二〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	石灰 五五五〇 (酸化石灰)
強過磷酸石灰		三九〇	三八〇	七七〇	
硫酸加里			一四〇〇	一四〇〇	
石灰	一〇、〇〇〇			一〇、〇〇〇	

備考 本年より紫雲英ノ農作ヲ廢セシメ及肥料ノ配合上多少ノ變動ヲ生ズ但シ四要素量ニハ變化ナシ

左記ノ外ハ前年度ト同一

二、多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試験

(1) 本田肥料 (反当貫)

肥料名	基肥	牙二四連肥 播種後十五日	牙二四連肥 播種後三十日	合計	四要素量
堆肥	六〇〇〇			六〇〇〇	窒素 五〇〇 磷 五〇〇 加里 七七〇
紫雲英	二〇〇〇			二〇〇〇	磷 五〇〇 加里 七七〇
硫酸安母尼亞		二〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	加里 七七〇
撒大豆粕		一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	加里 七七〇
強過磷酸石灰		七七〇	七七〇	一五四〇	磷 五〇〇 加里 七七〇
硫酸加里		三〇〇	三〇〇	六〇〇	加里 七七〇
石灰	二〇〇〇			二〇〇〇	石灰 二〇〇〇 (酸化石灰)

備考 本年より紫雲英ノ農作ヲ廢セシメ及肥料ノ配合上多少ノ變動ヲ生ズ但シ四要素量ニハ變化ナシ

島 大 島 五

左記ノ外ハ前年度ト同一

三、多肥栽培ニ依ル系統生産力檢定試験並ニ新品種決定試験

(1) 本田肥料

前項 系統育成試験ノモノト同一

左記ノ外ハ前年度ト同一 (昭和四年度設計参照)

三、各試験栽植標準

栽植	畦間 × 株間	區株數	區畦數	區面積	區制	標準已 設置	備考
----	---------	-----	-----	-----	----	-----------	----

一、交配用品種選定試験 (多肥栽培並ニ標準栽培)

一本植	一尺 × 五寸	九六	三	一坪五	一區制		五區每
-----	---------	----	---	-----	-----	--	-----

二、雜種第三代系統及個体選拔試験 (標準栽培)

一本植	一尺 × 五寸	一四四	三	二〇	/		五區每
-----	---------	-----	---	----	---	--	-----

一 木植	一尺 x 五寸	一四四	三	〇	/	全
二 木植	一尺 x 五寸	二五二	六	五二四	一七割	全
三 木植	八寸 x 五寸	三五二	六	五二四	二七割	全

三 雜種第四代以後系統育成試驗 (標準並多肥栽培)

四 半固定系統生產力檢定試驗 (標準並多肥栽培)

五 新品種決定試驗 (標準並多肥栽培)

四 試驗操作

本有指定「水稻新品種育成」關於試驗方法「根據」

島 七
島 八

三 試驗計劃

一 昭和五年度 試驗計劃要綱

試驗名	交配組合數	系統數	區數	條面積	備考
交配用產選定試驗					
甲 多肥栽培 二俵七七	/	一四一	一七五	九畝步	
乙 標準栽培 二俵七七	/	一四一	一七五	九畝步	
雜種第三代系統各個 體逆接試驗					
標準栽培二俵七七	一三	二五〇	三〇五	二反一〇步	
雜種第四代以後系統 育成試驗					
一 標準栽培二俵七七	三八	三四七	四二一	二反八畝三寸	
二 多肥栽培二俵七七	三五	二八五	三七〇	二反五畝四寸	
合計	四二	六四五	七九一	五反三畝七寸	
半固定系統生產力檢 定試驗					

合計	四年目			三年目			標準品種	試驗年次	熟期	甲區多肥栽培 品種數 區數	乙區標準栽培 品種數 區數	備考
	計	晚	中	早	計	晚						
一四三	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	供試品種五種每二 標準品種ヲ置ク
一七五	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
一四三	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	甲區備面積九畝 乙區備面積九畝
一七五	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
供用面積一八畝												

二、各試驗設計
 (一) 多肥栽培ニ依ルテ交配用品種選定試驗設計概要(昭和五年度)

島 島
 一〇 九

合計	新品種決定試驗			合計	一標準栽培ニ依ル			合計	二多肥栽培ニ依ル			
	計	晚	中		早	計	晚		中	早	計	晚
一四三	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
一七五	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
一四三	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
一七五	一五	六三	三二	二〇	六	七	六	三	一	一	一	
供用面積一八畝												

統計
 第四代以後
 第三代
 交配用品種

合計
 一標準栽培ニ依ル
 二多肥栽培ニ依ル

合計
 一標準栽培ニ依ル
 二多肥栽培ニ依ル

四	三	/	四	二	三	二	六	一	七
六四五	二五〇	一四一	六	三	三	四八	二	三	二五
八七二	三〇五	三五〇	二〇	八	二	六一	二	九	三二
一畝 一畝 一畝	一畝 二畝 三畝	一畝 二畝 三畝	一畝	五畝 一〇步	五畝 一五步	一畝 二五步			

多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試験供試材料(昭和五年度)

品 種 番 号	品 種 名	熟 期	試 験 年 次	取 寄 先 取 寄 年 度	備 考
一	愛玉一号	早			
	北部二号	晚			
	八反流二号	早	四年目	当場(昭和二年)	
二	大 場		全	兵房()	
三	交配三号		三年目	高知(昭和四年和三年)	
四	早大場		四年目	京都(昭和二年)	
五	早生愛玉		三年目	宮城(昭和二年)	
六	八反草		四年目	兵房()	
七	鳥根一号		全	当場()	
八	八反流二号		全	台農()	
九	新早稻		全	本縣()	
一〇	中生愛玉		全	兵房()	
一一	供早稻号		全	当場()	
一二	牛 若		全	台農()	
一三	有田一号		全	京都()	
一四	舶来早稻		全	本縣()	
一五	交配八号		全	当場()	
一六	交配一三号		全	(昭和二年)	

島 一
島 二

一七	交配四号	早	四年目	当場(昭和二年)
一八	交配四号		全	()
一九	八反五号		全	兵房()
二〇	新母早稻		全	本縣()
二一	伊三七A		全	当場()
二二	早稻万作		全	兵房()
二三	石 白	中	全	新潟()
二四	出雲十号	早	三年目	兵房(昭和二年)
二五	川羽神種	中	全	新潟()
二六	改良愛玉		全	全()
二七	奥玉二号		全	全()
二八	改良愛玉		全	兵房()
二九	吹生愛玉		全	宮城()
三〇	愛玉七号		全	高知()
三一	交配四号		四年目	当場(昭和二年)
三二	無共愛玉		三年目	新潟(昭和二年)
三三	南取新号		全	全()
三四	山 玉		四年目	兵房(昭和二年)
三五	善光寺		三年目	政直(昭和二年)
三六	例 六		四年目	兵房(昭和二年)
三七	早北都		全	全()

三八	早北部	中	四年目	早北(昭和三年)
三九	改良早稻	〃	〃	〃
四〇	中北部	〃	〃	〃
四一	早八号	〃	〃	〃
四二	早十五号	〃	〃	〃
四三	島根愛玉	〃	〃	〃
四四	八ノ倉	〃	〃	〃
四五	小腹三号	〃	〃	〃
四六	福之袖	〃	〃	〃
四七	銀坊主	〃	〃	〃
四八	穀上三号	〃	〃	〃
四九	島根四号	〃	〃	〃
五〇	明徳	〃	三年目	改良(昭和三年)
五一	仁井	〃	〃	〃
五二	早生剛力	〃	〃	〃
五三	改良大場	〃	〃	〃
五四	強力一号	〃	四年目	島根(昭和三年)
五五	大和り出号	〃	〃	〃
五六	中北部	〃	〃	〃
五七	中生神力号	〃	〃	〃
五八	銀坊主	〃	三年目	北博(昭和三年)

島一三

五九	部益	中	四年目	東松(昭和三年)
六〇	丹後中輪号	〃	三年目	長原(昭和三年)
六一	銀坊主	〃	〃	〃
六二	玉錦	〃	四年目	高知(〃)
六三	中四号	〃	〃	〃
六四	丹後中輪	〃	〃	〃
六五	早生神力	〃	〃	〃
六六	早生神力	〃	〃	〃
六七	富士	〃	〃	〃
六八	中十九号	〃	〃	〃
六九	朝日	〃	〃	〃
七〇	早大園号	〃	〃	〃
七一	早銀丸	〃	〃	〃
七二	改良大田扶	〃	〃	〃
七三	万作	〃	〃	〃
七四	勝軍	〃	〃	〃
七五	早大園号	〃	〃	〃
七六	中生神力	〃	〃	〃
七七	早大園号	中	〃	〃
七八	早大園号	晚	〃	〃
七九	早大園号	〃	〃	〃

島一四

一〇	九九	九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇
金治三号	友弟八号	堂西	島根三号	新二本	中大九号	二平子	大錦	友弟四号	寶来	早竹瓜	都一号	大和出号	友弟四号	彦部号	中若水	江中	日久伊之山	中熟神九号	福神一号	友弟三九号
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合

島一五

一一	一〇	九九	九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇
龜治一号	横綱	大山神力	友弟八号	友弟四号	福神三号	八ヶ倉名	友弟薄皮	平一本	藤壽三号	白珍子	大石	神西一本	長一本	大石	塩田	龜治	新山	晚生神九号	友弟四号	友弟三九号	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
四年目	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合

島一六

一四一	交第六五号	。	四年目	当場(昭和三年)
一四〇	神力三六号	。	合	能本(一合)
一三九	劍十	。	合	合(一合)
一三八	白玉	。	合	合(一合)
一三七	京旭	。	三年目	岐阜(昭和三年)
一三六	武作換号	。	合	山口(一合)
一三五	勤業換号	。	合	当麻(一合)
一三四	交第三五号	。	合	合(一合)
一三三	交第七号	。	合	合(一合)
一三二	交第五八号	。	合	当場(一合)
一三一	畿内換出	。	合	合(一合)
一三〇	旭一号	。	合	合(一合)
一二九	神力一号	。	合	京都(一合)
一二八	漢一平	。	合	合(一合)
一二七	江原換	。	合	中松(一合)
一二六	宮内換主	。	合	福井(一合)
一二五	白龜治	。	合	本松(一合)
一二四	交第八号	。	合	当場(一合)
一二三	十南 部	。	合	本松(一合)
一二二	島根五号	。	四年目	当場(昭和三年)

島一七
島一八

雜種第三代系統及個体換核試驗計劃概要(昭和五年度)

標準栽培	良質多収	一三	二五〇	供用面積二反一〇步
栽培條件	主要育種目的	交配組合數	F ₃ 系統數	備考

標準栽培ニ依ル雜種第三代系統及個体換核試驗 供試材料
(昭和五年年度)

交配番号	主要育種目的	區別	供試品種及系統	備考
鴻雜(F ₃ 三)	良質多収	F ₃ 父母	千葉錦 敷島	一〇 一 一
鴻雜(F ₃ 八)	良質多収	F ₃ 父母	愛玉三号 三河錦	一五 一 一
鴻雜(F ₃ 九)	良質多収	F ₃ 父母	愛玉三号 大土不付	一五 一 一

雜種第四代以後系統育成試驗計劃概要(昭和五年度)

栽培條件			備考
第六代	第五代	第四代	
一	一	四	
三	四	一	
一	一	五	
一	一	一	

鴻雜(馬三五)	鴻雜(馬三五)	鴻雜(馬九三)	
良質多収	良質多収	良質多収	
馬父母	馬父母	馬父母	馬
富士 坂高六号	九州八号 坊主六号	旭 尾	
二	一	一	二

島 島
二 一

鴻雜(馬八三)	鴻雜(馬六八)	鴻雜(馬六一)	鴻雜(馬六〇)	鴻雜(馬五二)	鴻雜(馬四二)	鴻雜(馬四〇)
良質多収	良質多収	良質多収	良質多収	良質多収	良質多収	良質多収
父母	馬父母	馬父母	馬父母	馬父母	馬父母	馬父母
大和錦 愛七二〇号	大岡 龜治	三井 鐵内三三号	三河錦	保村八号 扶一	扶一 六	穀良都 尾
一	三	一	一	一	一	一

鴻 (F ₃ XXII)	鴻 (F ₃ XV)	鴻 (F ₃ VIII)	鴻 (F ₃ II)	交配番号
			第四代	世代
父母	F ₃ 父母	F ₃ 父母	F ₃ 父母	區別
	系統部	系統部	系統部 合單系統部	供試品種及系統 番号
愛 早生 神力	上 統 早生	荒 木 敷 良 都	大 場 女 源	名種
				系統數
				品種系統數
				備考

標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗 供試材料

(昭和五年度)

總計	供試面積	島	島
四二	五反	二反	二反
一九四	三畝	七畝	七畝
六三二			

多肥栽培							標準栽培					
計	第十代	第九代	第八代	第七代	第六代	第五代	第四代	計	第十代	第九代	第八代	第七代
三五	一	一	七	二	二	九	四	三八	一	二	六	二
八一	二	三	一〇	四	八	四	一〇	一一三	三	三	一〇	四
二八五	一〇	一〇	四〇	一六	一〇〇	七三	三六	三四七	一一	七	三八	一六
供試面積 二反五畝 四步								供試面積 二反八畝 三二步				

鴻						
第六代						
父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
藤早生 大和力	单独系統 三合半 日笹	至統部 单独系統 竹保 成村	合 系統部 单独系統 愛玉丸 團取	改良屬山 改良神月	系統部 石白 隆羽言島	单独系統 信州金子 愛玉
	三	四二二	五二三	五	三	三
	四	九三大	三四大	五	一〇	五

島 島
二 二
四 三

	鴻					
	鴻一五交					
	第五代					
	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
	系統部 上州 一州	系統部 大場 改良神月	系統部 女 白儀平	合 系統部 单独系統 女 換一	系統部 白 愛玉川	系統部 荒 殺良都 木
	三	二	五	五二三	四	二
	九	六	五一一	三四九	三一一	一〇一一

鴻

第七代

父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
至統部	至統部	至統部	至統部	至統部 合單統部 計	至統部	至統部
竹成	扶一	竹成	須賀 中禰 神	愛玉 上	晚禰 竹成	早禰 神
三	四	三	四二二	三	二	
一	二	一	一〇三七	一〇	七	

島二五
島二六

所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
至統部	至統部 合單統部 計	至統部	至統部	至統部 合單統部 計	至統部 合單統部 計	至統部 合單統部 計
中禰 神	雄町	早禰 神	早禰 神	大和 力	愛玉	穀良 部
二	四一三	一	一	四二二	四二一	六三三
七	一一〇	三	三	一〇四六	九六三	五五〇

文配番号		鴻(134)	
世代		第四代	
父母	母	父	母
荒木	穀良郡	荒木	穀良郡
飼試品種及系統		大場流	
親系統		二	
子系統		六	
備考			

多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗供試材料
(昭和五年度)

第十代		第九代	
父母	母	父	母
早生神力	無苦愛玉	早生神力	無苦愛玉
飼試品種及系統		大場早	
親系統		三	
子系統		二	

第八代		鴻	
父母	母	父	母
早生神力	無苦愛玉	早生神力	無苦愛玉
飼試品種及系統		大場流	
親系統		二	
子系統		七	

島二八
島二七

第五代

所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
单独系统 大和力 改良神戶	单独系统 信為全子 後不	系统部 白儀平 女洗	系统部 白川 慶五	系统部 早生神戶 愛五	系统部 上統 後早生	系统部
一	三一二	三	三	二	一	五
三	八二六	〇	三	八	四	八

島 二九
島 三〇

第六代

所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
单独系统 大和力 藤早生	系统部 信為 愛五	系统部 白儀 合半	系统部 竹成 保村	系统部 肉取 愛五	系统部 改良福山 改良大和力	单独系统 陸羽二〇号 石白
一	二	二	二	二	五二三	三
三	六	八	八	八	三三〇	六

	第八代		第七代			
父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
	系統部	系統部	系統部	系統部	系統部	系統部
大羊場	白笹	白笹	竹成	大知力	竹成一	中箱神力 須賀牛
一	三	一	四	三	三	
四	二	四	四	三	一〇	

島 島
三 三
二 一

所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母	所父母
系統部	系統部	系統部	系統部	系統部	系統部	系統部
竹成	中箱神力 雄所	早箱神力 愛玉	早箱神力 穀良郡	上野 愛玉	穀良郡	穀良郡
四	二	一	一	三一二	三	三
五三	八	四	四	八二六	二	二

		標準栽培					栽培條件	
第一年目	合計	第三年目			第二年目		第一年目	試驗年次
第六代		第十代	第九代	第八代	第七代	第六代	第五代	世代
四	一七	一	一	四	二	六	三	交配組合數
五	二五	二	一	七	四	八	三	系統數
一區制							一區制	區制
	備南積五畝五步							備考

米固定系統生産力檢定試驗計劃概要 (昭和五年度)

		第十代	
F ₁₀ 父母		系統部	
		曉三早 大場早	
二			
一			
		島三三 島三四	

		第九代							
F ₉ 父母		F ₈ 父母		F ₇ 父母		F ₆ 父母		F ₅ 父母	
系統部		系統部		系統部		系統部		系統部	
無苦愛示 早神力		新田取 大早生		無苦愛示 早神力		無苦愛示 早神力		女流 龜尾	
三		一		三		二		一	
一		四		三		八		四	

馮	馮	馮	馮	馮	馮
馮	馮	馮	馮	馮	馮
白	女	女	女	女	白
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一

新品種決定試驗計劃概要 (昭和五年度)

栽培條件	試驗年次	世代	系統組合數	系統數	區制	備考
標準栽培	第一年日	第一代	一	一	二區制	備 考
合計	第一年日	第一代	一	一	二區制	備 考
多化栽培	第一年日	第一代	一	一	二區制	備 考

總計	合計	第一代	一	一	二區制	備 考
合計	合計	第一代	一	一	二區制	備 考
合計	合計	第一代	一	一	二區制	備 考

標準栽培後新品種決定試驗 供試材料 (昭和五年度)

試驗年次	區別	供試品種	系統數	備考
第一年日	標準	愛宕一號	二	二區制
第一年日	標準	早大園一號	二	二區制
第一年日	標準	早部一號	二	二區制
第一年日	標準	早大場	一	二區制
第一年日	標準	晚三早	一	二區制

多肥栽培ニ依ル新品種決定試験 供試材料 (昭和五年度)

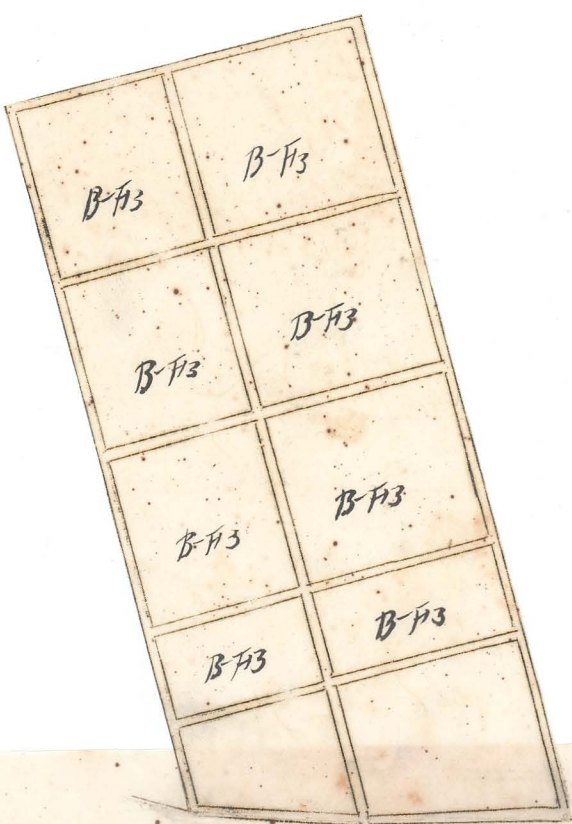
第一年目				試験年次	
場所	圃形	区	標準	区別	供試品種又ハ系統
映三号 × 大場旦一	大場 × 合半	北部二号	愛玉一号	番号	名称
二	一	二	二	区数	系統数
				備	考

二區制



略解

多肥栽培=依儿交配用品種選定試驗
 P_a 並 P_b 全上試驗供試材料標準栽培
 $B-F3$ 標準栽培=依儿雜種第3代個體系統選校試驗
 $B-I$ 標準栽培=依儿雜種第4代以後系統育成試驗
 $B-IIIV$ 全上穩定系統生產力檢定試驗並新品種決定試驗
 $M-I$ 多肥栽培依儿雜種第4代以後系統育成試驗
 $M-IIIV$ 全上穩定系統生產力檢定試驗並新品種決定試驗



略解

- 多肥栽培=依凡配用品種選定試驗
- P-a並P-b 全上試驗供試材料標準栽培
- B-F3 標準栽培=依凡雜種第四代以後系統選校試驗
- B-I 標準栽培=依凡雜種第四代以後系統育成試驗
- B-IIa全上指選系統生力檢定試驗並新品種檢定試驗
- M-I 多肥栽培=依凡雜種第四代以後系統育成試驗
- M-II全上指選系統生力檢定試驗並新品種檢定試驗

